



ブラジルの政策金利の引き下げについて

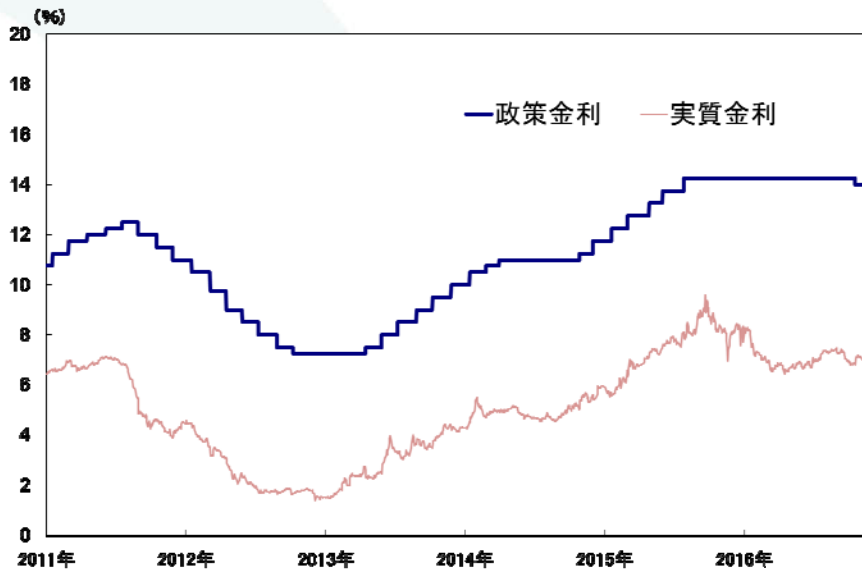
ブラジル中央銀行は、現地 2016 年 11 月 29 日・30 日に開催された COPOM(金融政策委員会)において、市場予想通り Selic(政策金利)を 0.25%引き下げ、年率 13.75%とすることを決定したと発表しました。

トランプ次期米政権の経済政策をめぐる先行き不透明感が強いことで、ブラジルをはじめとする新興国に資金が流入する好ましい環境の継続は難しく、今後の海外市場でのボラティリティの拡大を考慮し、大幅な利下げには踏み切りませんでした。

しかし、ブラジル地理統計院(IBGE)が発表した 7-9 月期の GDP は、下落幅は縮小傾向にあるものの、依然マイナス成長であったことや、インフレ率の上昇傾向が弱まったと同時に落ち着きつつあるとの見方もある事から、今後の利下げのペースの加速すらあり得るといふ姿勢をブラジル中銀は示唆しました。

次回、2017 年 1 月に COPOM の開催が予定されていますが、国内景気の状態によっては、大幅な追加利下げが行われる可能性もあることから、市場動向を注視してまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2011年1月～2016年11月30日)



2016年11月30日
14.00%→13.75%へ
0.25%の引き下げ

*政策金利: Selic を使用。*実質金利: 名目金利とインフレ率を使用し算出
*出所: ブラジル中央銀行のデータより BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

本資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料は BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点で作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

